

能力伸長・生田メソッド=高い目標×文武両道・文理両道×自学自習×協働×ICT  
○「不確実な時代」を確かに生き抜く「主体的な意志のある自立した『個』」の育成  
○「複雑な時代」を解き明かす「協働」の前提たる「主体的な意志のある自立した『個』」の育成

### (英語 speaking スキルの重要性)

皆さんが、世に出て、それぞれの進路で「力」を発揮するためには、英語の speaking スキルが必要です。大学入試でその力が求められているか否かで、speaking スキルの必要性を判断してはいけません。生田高校は、卒業後の進路をゴールにしません。スタートにします。英語 speaking スキルを鍛えてください。

iPS細胞、ノーベル生理学・医学賞の山中伸弥教授は乏しい語彙数で縦横無尽に英語をしゃべります。山中教授曰く、「研究は半分。残り半分は『どう伝えるか』。」と。海外で成功しているスポーツ選手も語学力を鍛えました。

### (「授業の構え」の重要性)

京都大学教授から桐蔭学園理事長(兼トランジションセンター所長兼桐蔭横浜大学特任教授)に転じた溝上慎一先生という方がいます。アクティブ・ラーニングの視点による授業研究の第一人者です。(この方の用語は「アクティブラーニング型授業」、文科省の用語は「アクティブ・ラーニングの視点」。)その溝上先生の著作に『アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性』(東信堂/2018年2月28日初版第1刷発行)という本があります。

「生徒の身体性」というのは、授業における生徒の身体の「向き、動き、態度」のことですが、いわゆる「授業態度」のことではありません。「静かにおとなしく授業を聞いている」時、脳は往々にしてアクティブ(活動的)ではない。脳のアクティブ具合は、身体の「向き、動き」に表れます。であれば、逆にアクティブな身体の「向き、動き」を取れば、脳がアクティブになりやすくなる。ですから、「態度」ではなく「向き、動き、態度」と呼ぶわけですが、私はこれを「構え」の一語に置き換えたいと思います。「身体の向き、動き、態度」、即ち「身体の構え」です。「身体の構え」は「心構え」に通じます。不易流行です。皆さん、「構え」を作りましょう。

## 読み書きの奨め

「アクティブ・ラーニングの視点」による授業の基本形は、「個→協働→個」の学習サイクルと「内化→外化→内化」の学習サイクルにより構成されます。内化はインプット、「読む」「聞く」等による情報収集です。外化はアウトプツ

ト、「書く」「話す」「発表する」「振り返る」「まとめる」等による理解の深め、思考・判断・表現です。

- ① 個による内化（講義を聞く、**教科書・資料集等を読み取る**）
- ② **個による外化（書く）**
- ③ 協働による外化（話す・発表する）&内化（聞く）
- ④ 個による内化（教師によるフォローを聞く）
- ⑤ **個による外化（学習内容のまとめを書く）**

こういうサイクルです。ここで特に強調しておきたいのは、「教科書等を読み取る」ことの大切さと「個による外化」、即ち、「書く」ことの大切さです。

「習得・活用・探究」という考え方があります。「習得・活用・探究」は必ずこの順番で行われるわけではありません。「探究」の中心は「総合的な探究の時間」であり、「習得・活用」の中心は各教科・科目です。その「習得・活用」ですが、「習得→活用」という順番ならば、即ち「知識習得→知識活用」ということになります。が、私たちの日常の思考・判断・表現の多くは「情報活用」により行われています。その結果、知識が習得される。つまり、「情報活用→知識習得」という道筋が多い。情報活用の前段階は情報収集、つまり、「情報収集→情報活用→知識習得」という道筋です。そして、この「情報収集」の最たる方法が「教科書・資料集等を自力で読み取る」ことなのです。

次に「情報活用」ですが、その最たる行為は「書く」ことです。「書く」こと即ち思考・判断・表現です。書くことで思考が深まり、脳の外の情報が脳内の知識として定着します。

思考力・判断力を鍛える方法は、「読む」と「書く」ことです。皆さんが、世に出て、それぞれの進路で「力」を発揮するためには、「読む力」「書く力」が必要です。大学入試でその力が求められているか否かで、「読む力」「書く力」の必要性を判断してはいけません。生田高校は、卒業後の進路をゴールにしません。スタートにします。「読む力」「書く力」を鍛えてください。

**さあ、皆さん、教科書・資料集等を読みましょう。そして、書きましょう。「読む力」「書く力」は「生きる力」です。**

.....

受験生の皆さん。夏休みです。徹底的に「意図的な学習」をしてください。「意図的ではない学習もどき」とは、もともとできることをやり続けることです。できることとできないことを明確に区別し、できないことを一つずつできるようにしましょう。時間がかかります。焦らずじっくりと意図的に学習してください。陰ながら応援しております。

.....

皆さん、「本校の教育相談と夏季休業前後の面談等について（040708 付け校長メッセージ）」、読んでくれましたね。困っているのであれば、ひとりで抱え込まずにいつでも相談してください。